Ital（イタル）通信

ふてほど、裏金問題、界隈、初老ジャパン、新紙幣、50-50、Bling-Bang-Bang-Born、ホワイト案件、名言がのこせなかった、もうええでしょう

令和６年１２月４日
浜玉中学校通信No.154
校長　丹　野　　到

12月

『浜玉中三訓』　時間　掃除　あいさつ　《時を守り 場を清め 礼をつくす》

《学校教育目標》　『持続可能な社会の創り手となる生徒の育成』

《めざす生徒像》 豊かな心で、未来を切り拓く生徒

◆ 学習指導要領と学習評価について　その２ ◆

Ital 通信 153 号で、現行の学習指導要領の理念と子どもたちの学びについてお伝えしました。今回は、現行の学習指導要領における学習評価の考え方についてお知らせします。

各教科の評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で全教科統一されています。

■「知識・技能」の評価について

学習の過程を通して習得した知識・技能を既存の知識・技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。これらは、ペーパーテストや実際に知識や技能を用いる場を設定し評価することになります。

■「思考・判断・表現」の評価について

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものです。これらは、論述・レポート・発表・作品制作等、考えを表現する場や思考・判断する場を設定し評価することになります。

■「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価するものです。これらは、ノートやレポートの記述、授業中の発言、教師による行動観察など、考えや思いを表出させる場を設定し評価することになります。

【参考】児童生徒の学習評価の在り方について（文部科学省）

上記の３観点による学習評価は、「観点別学習評価」と呼ばれ、A、B、C の３段階で評価を行うこととされています。➡　その３に続きます

◆ 横断歩道を横断する意思表示「ハンドサイン」 ◆

今年は、歩行者の道路横断中の事故が相次いでいます。事故は、横断歩道上でも発生しています。道路交通法では、横断歩道を横断しようとする歩行者がいる場合は、車は一時停止することが義務付けられています。

しかし、信号機のない横断歩道では、「車がなかなか止まってくれない」という声が多いそうです。車側の理由としては「歩行者が渡るかどうか分からない」「手を挙げていないと、気付くのが遅くなり止まれない」という意見があるそうです。

車道を渡るときは、横断歩道を渡ることに努め、車に顔を向けたり目線を送ったりすることが大切です。そして、横断する意思表示として、手を上げたり、手を差し出したりするなど、ハンドサインを出すことが推奨されています。

■今年の新語・流行語大賞が発表された■年間大賞は「ふてほど」とのこと■残念ながら、私にはその意味が分からなかった■宮藤官九郎さんが脚本を手掛けたドラマ「不適切にもほどがある！」を略した言葉らしい■昭和の体育教師が現代にタイムスリップしたドラマ■コンプライアンスに縛られているのも現実かな（イタル）